

平成28年10月18日
記者発表

特別展 **動き出す！絵画** モネ、ゴッホ、ピカソらと大正の若き洋画家たち

セザンヌ、モネ、ルノワール、ゴッホ、ピカソら印象派を中心とした西洋近代美術の重要作家に加え、岸田劉生、萬鉄五郎ら日本近代美術を変革した主要な作家たちの作品約170点が、全国70カ所より和歌山に集まります。

会期：平成28年11月19日(土)～平成29年1月15日(日)
会場：和歌山県立近代美術館
観覧料：一般 1,000 (800) 円、大学生 800 (600) 円
▽ () 内は20名以上の団体料金
▽ 高校生以下、65歳以上、障害者の方、県内に在学中の外国人留学生は無料
▽ 11月26日(土)、12月24日(土)は「紀陽文化財団の日」として大学生無料
開会式：平成28年11月19日(土) 9:30～(受付9:00～)

◆内覧会：平成28年11月18日(金) 15:00～(受付14:45～)
展覧会関係者、マスコミ関係者等

和歌山県立近代美術館を含め、国内3カ所を巡回
東京ステーションギャラリー 平成28年9月17日～平成28年11月6日(現在開催中)
下関市立美術館 平成29年1月28日～平成29年3月12日

関連事業

- 対談講演会「動く私、動く自画像」
日時：平成28年11月26日(土)14:00～
- 手回しアニメフィルム上映・解説会
日時：平成28年12月23日(金・祝)14:00～
- レクチャーコンサート「出会う！音楽」
日時：平成29年1月8日(日)14:00～
- フロアーレクチャー(学芸員による展示解説)
日時：平成28年11月20日(日)、12月11日(日)、平成29年1月9日(月・祝)
各14:00～
- こども美術館部(小学生対象の鑑賞会)
日時：平成28年12月3日(土)14:00～

同時開催

- 大正の異色画家たち
特別展に関連し、大正時代の美術の諸相を、当館コレクション作品を中心に個人コレクションも交えて紹介します。

【問い合わせ先】
文化学術課：坂頭・田嶋
TEL 073-441-2050



特別展

モネ、ゴッホ、ピカソらと
大正の若き洋画家たち

動き出す! 絵画

Paintings GO Motion!
Kitayama Scitaro and Artists in the Taisho Era

パール北山
の
夢

◆ 内覧会

11月18日(金) 午後3時より(受付:午後2時45分より)

◆ 開会式

11月19日(土) 午前9時30分より(受付:午前9時より)



2016年

11月19日(土) - 1月15日(日)

2017年



和歌山県立近代美術館

〒640-8137 和歌山市吹上 1-4-14

TEL 073-436-8690 FAX 073-436-1337

E-MAIL moma_w@future.ocn.ne.jp WEB <http://www.momaw.jp/>

動き出す！ 絵画 ペール北山の夢 —モネ、ゴッホ、ピカソらと大正の若き洋画家たち 2016年11月19日(土)～2017年1月15日(日)

北山清太郎には終生の恩があります。——木村荘八

その頃、特筆すべきは「現代の美術」と言う美術雑誌を主宰していた北山清太郎氏で、われわれの仲間ではペエル、タンギーで通っていた。あらゆる意味から、この人ぐらい熱心に当時の美術界に尽力した人はないであろう。——高村光太郎



大正初期、大きな転換期を迎えた日本の美術を、影ながら動かした知られざる人物がいます。和歌山市に生まれた北山清太郎(1888-1945)がその人です。

北山は、美術雑誌『現代の洋画』や『現代の美術』等を出版して西洋の美術を盛んに紹介するとともに、岸田劉生や木村荘八ら、若い洋画家たちの活動を、展覧会の開催やカタログの出版などを通して献身的に支えました。その篤い支援に感謝した画家たちは、北山をパリでファン・ゴッホら多くの若い画家たちを支援した、画材商のペール・タンギー(タンギー親爺)になぞらえて、「ペール北山」と呼びました。



1.

今回の展覧会では、この北山の活動を手がかりに、大正期の日本を熱狂させた西洋美術と、それに影響を受けながら展開した近代日本の美術を同時に紹介することを試みます。当時の画家たちが、次々と流入する情報から西洋美術の何を学び取り、影響を受けながらもそれをどのように乗り越え、自らの表現を作り上げるにいたったのか。大正という熱い時代の美術を、改めて検証します。

なお北山は、その後美術の世界からアニメーションの分野へ転身し、ちょうど100年前の1917(大正6)年に、初めてアニメーション作品を発表した日本人3人のひとりとなります。北山は、まさに「絵を動かす」人となったのです。

展覧会構成

プロローグ 動き出す「洋画」——北山清太郎と『みづゑ』の時代



2.

明治30年代、日本各地の若者たちの間で起こった水彩画ブームと、その拠り所となった水彩画の専門雑誌『みづゑ』。手軽な「洋画」としての水彩画をきっかけに、アカデミックな教育を受けずに美術を志す若者たちが数多く生まれてきます。北山清太郎もそのひとりでした。新たな時代を動かす若者たちを生んだ時代背景と、後に盛んになる美術雑誌文化のはじまりを、展覧会の最初にたどります。

1 動き出す夢——ペール北山と欧州洋画熱

1912(明治45)年4月、北山清太郎は美術雑誌『現代の洋画』を創刊、西洋美術の積極的な紹介に動き出します。カラー図版を多用した誌面は、新しい美術への関心を持った若者たちを惹き付けました。本章では、北山が誌面で紹介し、当時の画家たちが雑誌や書籍を通して感化を受けた西洋の美術を、実際の作品によって紹介します。



3.



4.



5.

2 動き出す時代—新帰朝者たちの活躍と大正の萌芽

明治末頃、西欧に留学した美術家たちは、新しく起こった美術の動向を直接体感しました。そして帰国した彼らは、自らが学んだ美術を『スバル』や『白樺』等の文芸雑誌の中で紹介するとともに、それを体現した自作を展覧会で発表し始めます。その旧来の枠に収まらない表現のあり方は、美術において新たな時代が到来しつつあることを、世に知らしめることとなりました。



6.



7.



8.

3 動き出す絵画—ペール北山とフェウザン会、生活社

1912（大正元）年秋、新帰朝の斎藤与里と高村光太郎を中心に、岸田劉生、萬鉄五郎らが加わって、ヒュウザン会（のちフェウザン会）が結成され、展覧会が開催されます。「後期印象派」からの影響を示す作品が多数出品されたこの展覧会は、新たな美術動向として大きな注目を集めました。北山清太郎は、会の運営に携わるとともに、目録や機関誌の発行を手がけています。フェウザン会の活動と、参加者を中心にしたその後の展開をたどります。



9.



10.



11.



12.

4 動き出した先に—巽画会から草土社へ



13.



14.



15.

北山清太郎は、1914（大正3）年秋、日本画家の団体、巽画会に新設された洋画部の運営を任されることとなります。岸田劉生や木村莊八を展覧会審査員に迎えた洋画部は、新機軸として椿貞雄や中川一政ら、若い画家たちを集めました。さらに翌年、巽画会から独立した北山は、岸田らと新たな展覧会をおこします。第1回展の開催をもって草土社と名を変えた展覧会は、大正時代の美術に新たな動きを示していくことになりました。

エピローグ 動き出す絵—北山清太郎と日本アニメーションの誕生

1916（大正5）年半ば、北山清太郎は美術の世界から離れ、アニメーションの世界に移ります。日本ではまだ誰も完成させたことがなかった「動く絵」の制作を次の仕事に選んだのでした。日本活動写真株式会社（日活）の協力も受け、翌1917（大正6）年5月には第1作となるアニメーション作品を発表。その年に日本で最初のアニメーションを手がけた3人のひとりとなります。展覧会の最後に北山の作品を含めた希少な大正期のアニメーションを紹介します。



16.



17.

関連事業

- **対談講演会「動く私、動く自画像」** 講師：森村泰昌（現代美術作家）× 聞き手：熊田司（当館館長）
11月26日（土） 14:00 から2階ホールにて（13:30開場、先着120名 *9:30より受付にて整理券配布）
巨匠と呼ばれる画家の絵に自らなりきる写真作品を制作してきた森村泰昌さんに、その制作を通して見えてきた作品の魅力や秘密、また本展を観て感じられたことなどを、当館館長が聞き手となつてうかがいます。
- **手回しアニメフィルム上映・解説会** 講師：松本夏樹（映像文化史研究者）
12月23日（金・祝） 14:00 から2階ホールにて（13:30開場、先着120名 *9:30より受付にて整理券配布）
北山清太郎が日本最初のアニメーション作家であることに関連して、当時のアニメーションの上映と解説を行います。
- **レクチャーコンサート「出会う！音楽」** 講師・ピアノ：松井淑恵（和歌山大学）× ヴァイオリン：日俣綾子
2017年1月8日（日） 14:00 から2階ホールにて（13:30開場、先着120名 *9:30より受付にて整理券配布）
美術と同じように西洋からの影響を受けて展開した近代日本の音楽と、アジアからの影響を受けた西洋音楽を、解説つきの演奏で紹介いたします。
- **フロアレクチャー（学芸員による展示解説）**
11月20日（日）、12月11日（日）、2017年1月9日（月・祝） 14:00 から会場にて（要観覧券）
- **こども美術館部（小学生対象の鑑賞会）**
12月3日（土） 14:00 から会場にて（当日開始時間までに要受付）

開催概要

会場	和歌山県立近代美術館 1階展示室
主催	和歌山県立近代美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
協賛	ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜
会期	2016年11月19日（土）～2017年1月15日（日）
開館時間	9時30分～17時（入場は16時30分まで）*11/19は10:00開場
休館日	月曜日（1/9は開館し、翌1/10休館）、年末年始（12/29～1/3）
観覧料	一般1000（800）円、大学生800（600）円（ ）内は20名以上の団体料金 * 高校生以下、65歳以上、障害者の方、県内に在学中の外国人留学生は無料 * 第4土曜日（11/26、12/24）は「紀陽文化財団の日」として大学生無料

● 会期中一部展示替えを行います。
（ただし、ここに図版が掲載された作品は、通期で展示される予定です。）

前期：11/19（土）～12/18（日）
後期：12/20（火）～1/15（日）

主な出品作品

掲載用画像については広報担当にお問合せ下さい。

※文字のせ、トリミング等のご遠慮ください。

1. アニメーション原画制作中の北山清太郎、1919年頃
2. 大下藤次郎 秋の海（小豆島） 1910年頃 田辺市立美術館蔵
3. 『現代の洋画』第2号 1912年5月発行 和歌山県立近代美術館蔵
4. ポール・セザンヌ 縞模様の服を着たセザンヌ夫人 1883-85年 横浜美術館蔵
5. クロード・モネ サルーテ運河 1908年 ポーラ美術館蔵
6. 山脇信徳 雨の夕 1908年 高知市蔵
7. 斎藤与里 水浴の女 1909年 加須市蔵
8. 斎藤豊作 秋の色 1912年
9. 岸田劉生 「第二回フェウザン会展覧会」会場装飾画 1913年 公益財団法人日動美術財団蔵
10. 木村荘八 祖母と子猫 1912年 東京都現代美術館蔵
11. 萬鉄五郎 女の顔（ポアの女） 1912年 岩手県立美術館蔵
12. 川上涼花 鉄路 1912年 東京国立近代美術館蔵
13. 木村荘八 壺を持つ女 1915年 愛知県美術館蔵
14. 椿貞雄 自画像 1915年 千葉県立美術館蔵
15. 岸田劉生 童女図（麗子立像） 1923年 神奈川県立近代美術館蔵
16. 北山清太郎 浦島太郎 1918年 東京国立近代美術館フィルムセンター蔵 [原版提供：松本夏樹]
17. 幸内純一 なまくら刀 1917年 東京国立近代美術館フィルムセンター蔵 [原版一部提供：松本夏樹]
- 表紙-上 フィンセント・ファン・ゴッホ 雪原で薪を集める人びと 1884年 吉野石膏株式会社蔵（山形美術館に寄託）
- 表紙-下左 ピエール＝オーギュスト・ルノワール 泉による女 1914年 大原美術館蔵
- 表紙-下中 岸田劉生 黒き帽子の自画像 1914年
- 表紙-下右 カミュー・ピサロ ポントワーズのレザールの丘 1882年 鹿児島市立美術館蔵

同時開催 大正の異色画家たち

2016年11月19日(土)～2017年1月15日(日)



▲ 藤森静雄 《花》 1915(大正4)年
油彩、キャンバス 当館蔵

当館コレクションを中心に、稀少な個人コレクションを交え、「大正の異色画家たち」展を特別展「動き出す! 絵画 モネ、ゴッホ、ピカソらと大正の若き洋画家たち」と同時開催します。

和歌山県中辺路出身の野長瀬晩花をはじめ、新時代の日本画を志して1918(大正7)年に創立された国画創作協会に集まった画家とその周辺。1914(大正3)年に珠玉の版画集『月映』を刊行した田中恭吉たち。野長瀬晩花や田中恭吉らと親交を持ち、抒情的な世界を描いて一世を風靡した竹久夢二。1926(大正15)年に結成した「一九三〇年協会」に関わった佐伯祐三、川口軌外ら洋画家たち。

夏目漱石が和歌山で「現代日本の開化」と題して講演し、明治維新後の日本における外発的な近代化の問題を指摘したのは1911(明治44)年のことでした。展覧会に登場するのは、そうした近代化の只中で育ち、漱石の言説に共鳴した若い世代の作家たちです。1910(明治43)年に創刊された文芸誌『白樺』の思潮に代表されるように、彼らは個性の伸張を求めて自らの生命の在処を問い、ある時は静やかに、ある時には大胆すぎる程の表現で新しい美術に挑戦しました。大正期美術の諸相を「動き出す! 絵画」と合わせ、ぜひご覧ください。



▲ 竹久夢二 《春の宵》 1910年代前半
(大正初期) 顔料、紙 個人蔵

関連事業

● フロアレクチャー (学芸員による展示解説)

11月27日(日)、12月17日(土)、1月14日(土) 14:00から会場にて(要観覧券)

開催概要

- 会場 和歌山県立近代美術館 2階展示室
主催 和歌山県立近代美術館
会期 2016年11月19日(土)～2017年1月15日(日)
開館時間 9時30分～17時(入場は16時30分まで) *11/19は10:00開場
休館日 月曜日(1/9は開館し、翌1/10休館)、年末年始(12/29～1/3)
観覧料 「大正の異色画家たち」展のみ観覧の場合、一般340(270)円、大学生230(180)円()内は20名以上の団体料金
* 特別展「動き出す! 絵画」観覧の方は無料
* 高校生以下、65歳以上、障害者の方、県内に在学中の外国人留学生は無料
* 第4土曜日(11/26、12/24)は「紀陽文化財団の日」として大学生無料
* 11/19、11/20は「関西文化の日」として無料 * 11/22は「和歌山県ふるさと誕生日」として無料

掲載用画像については広報担当にお問合せ下さい。

【次回開催】

泉茂 ハンサムな絵のつくりかた

【会期】2017年1月27日(金)～3月26日(日)

【会場】2階展示室

【お問い合わせ先】

「動き出す! 絵画」学芸担当: 宮本久宣・青木加苗

「大正の異色画家たち」学芸担当: 井上芳子

広報担当: 島

和歌山県立近代美術館

〒640-8137 和歌山市吹上 1-4-14

TEL 073-436-8690 (代表)

FAX 073-436-1337

E-MAIL moma_w@future.ocn.ne.jp

WEB <http://www.momaw.jp/>

若き洋画家たちの革新と
彼らが夢見た西洋の美術

モネ、ゴッホ、ピカソらと 大正の若き洋画家たち

2016年 2017年
11月19日(土) - 1月15日(日)

開館時間: 9:30-17:00(入場は16:30まで) *11/19は10:00開場
休館日: 月曜日(1/9は開館し、翌1/10休館)、年末年始(12/29-1/3)

主催: 和歌山県立近代美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
協賛: ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜

観覧料: 一般1000(800)円、大学生800(600)円
()内は20名以上の団体料金/高校生以下、65歳以上、障害者の方、県内に在学中の
外国人留学生は無料/11/26、12/24は「紀陽文化財団の日」として大学生無料

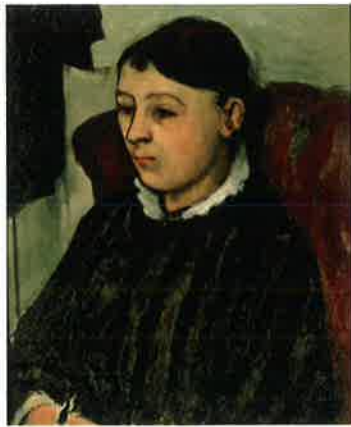
和歌山県立近代美術館 
The Museum of Modern Art, Wakayama

動き出す 絵画!

Paintings GO Motion!
Kitayama Seitaro and Artists in the Taisho Era



(左上から時計回りに) ビエール=オーギュスト・ルノワール《泉による女》1914年 大原美術館蔵/岸田劉生《黒き帽子の自画像》1914年/フィンセント・ファン・ゴッホ《豊原で薪を集める人びと》1884年 吉野石膏株式会社蔵(山形美術館に寄託)/
クロード・モネ《サルーテ運河》1908年 ボーラ美術館蔵



(左列上から) 藤島武二《幸ある朝》1908年 泉屋博古館分館蔵／斎藤与里《木蔭》1912年 加須市蔵／川上涼花《鉄路》1912年 東京国立近代美術館蔵
 (右列上から) ボール・セザンヌ《縞縞様の服を着たセザンヌ夫人》1883-85年 横浜美術館蔵／ポール・シニャック《ヴェニス、サルーテ教会》1908年 宮崎県立美術館蔵／岸田劉生《蓮女園(麗子立像)》1923年 神奈川県立近代美術館蔵／樺島雄《冬枯の道》1916年 東京国立近代美術館蔵

和歌山県立近代美術館に、西洋美術の名品と日本洋画の名品が一堂に会します。

明治時代末から大正時代にかけて、日本には西洋美術についての情報が急速に流入し、当時の洋画家たちはその影響を受けながらも、自分たち自身の新たな表現を求めて動き出します。

そのきっかけを作ったのは、和歌山市出身の北山清太郎(1888-1945)という人物です。北山は、大正時代に『現代の洋画』という美術雑誌を出版して西洋の美術を盛んに紹介しました。また岸田劉生や木村莊八、高村光太郎といった同時代の画家たちと交流を持ち、彼らの活動を支援しました。その貢献から北山は、パリでファン・ゴッホらを支援した画材商のペール・タンギー(タンギー親爺)になぞらえて、「ペール北山」と呼ばれます。

今回の展覧会では、この北山の活動を手がかりにして、大正期の画家たちがあこがれた西洋美術と、それに影響を受けながらも独自の表現を見出した大正期の洋画を対比させて紹介します。モネ、ファン・ゴッホ、ルノワール、ピカソといった画家たちから、日本の洋画家たちが何を学び、どう乗り越えようとしたのか。西洋と日本、名品の対比から、美術表現のダイナミズムを感じていただきたいと思います。

※会期中一部展示替えを行います。前期:11/19(土)-12/18(日) | 後期:12/20(火)-1/15(日)

関連事業

●対談講演会「動く私、動く自画像」
 講師：森村泰昌(現代美術作家)×聞き手：熊田司(当館館長)
 11月26日(土) 14:00から2階ホールにて
 (13:30開場、先着120名 *9:30より受付にて整理券配布)
 巨匠と呼ばれる画家の絵に自らなせる写真作品を制作してきた森村泰昌さんに、その制作を通して見えてきた作品の魅力や秘密、また本展を観て感じられたことなどを、当館館長が聞き手となってうかがいます。

●手回しアニメフィルム上映・解説会 講師：松本夏樹(映像文化史研究者)
 12月23日(金・祝) 14:00から2階ホールにて
 (13:30開場、先着120名 *9:30より受付にて整理券配布)
 北山清太郎が日本最初のアニメーション作家であることに関連して、当時のアニメーションの上映と解説を行います。

●レクチャーコンサート「出会う!音楽」
 講師：ピアノ：松井淑恵(和歌山大学)×ヴァイオリン：日俣綾子
 2017年1月8日(日) 14:00から2階ホールにて
 (13:30開場、先着120名 *9:30より受付にて整理券配布)
 美術と同じように西洋からの影響を受けて展開した近代日本の音楽と、アジアからの影響を受けた西洋音楽を、解説つきの演奏で紹介いたします。

●フロアレクチャー(学芸員による展示解説)
 11月20日(日)、12月11日(日)、2017年1月9日(月・祝) 14:00から会場にて、要観覧券

●こども美術館部(小学生対象の鑑賞会)
 12月3日(土) 14:00から会場にて、当日開始時間までに要受付

和歌山県立近代美術館

The Museum of Modern Art, Wakayama

〒640-8137 和歌山市吹上1-4-14(和歌山城の南、県庁前交差点すぐ)
 Tel.073-436-8690 Fax.073-436-1337 <http://www.momaw.jp/>

同時開催：大正の異色画家たち
 本展に関連し、大正時代の美術の諸相を、当館コレクションを中心に、個人コレクションも交えて紹介します。

和歌山県立博物館(とりの)の展覧会：
 特別展 蘆雪潑刺一草堂寺と紀南の至宝(～11/23)
 企画展 和歌浦・屏風・名所(12/3～1/15)



JR和歌山駅から：バス(2番乗り場)で約10分、「県庁前」下車、徒歩2分
 南海電鉄和歌山駅から：徒歩15分／バス(9番乗り場(15・73・273系統を除く))
 で約10分、「県庁前」下車、徒歩2分



自宅にてアニメーション原簿制作中の北山清太郎(1919年頃)